滿州日報

○報價目
每月收取八角 代賣所及送報人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼 登一日者每行二角 每登十日行一角五分 登月者每行每日一角 登長年者價當面議從減 每張四百文

特別廣告
▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千壹百五拾萬圓
本支店出張所
橫濱 神戸 東京 長崎 大阪
倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺
電話 十番 支配人室 百八番 事務室
橫濱正金銀行牛莊支店

日本郵船株式會社 瀛船出帆廣告
相模丸 四月十日發 大沽、芝罘、仁川、釜山 長崎、門司、神戸行
長幸丸 四月九日正午十二時 門司、神戸、橫濱行
筥島丸 四月九日午正十二時神戸直行（乘客は三等室無し三等室に限る）
山城丸 全十三日出帆 太沽、芝罘、長崎 神戸行
乘船切符發賣は出帆前三時間マデ 未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ
營口代理店 旗昌洋行（電話廿六番）

大阪商船株式會社 營口瀛船出帆廣告
潮州丸 門司 神戸行 四月十一日出帆
潮州丸代理店 東營口公園地橫 ブツシユ兄弟商會 遠來洋行（電話二十三）

新荷着廣告
朝日ビール・スペシャル、ライト
廉價販賣仕候
滿洲一手販賣元 松茂洋行 商品部（電話五二）

飯塚工程局材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞此佈 本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧需急之需 本主人啓

宅合名會社分莊 運輸部
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并一切雜貨其名譽己傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣棉絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋燒鐵表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸 運搬特得官准開設火車轉運行於東西兩店并牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚 總司理人田中賴之助謹白 電話 東店五 西店二

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寛大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便圍貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷 總司理人 葉亮卿謹白

東永茂
機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祗做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之 正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寛大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞 本主人敬啓

仁裕號
係裝運各術火輪船生意兼賣各制洋什貨糧石等此佈 營口西大廟街路北警乙第十三號

丸三洋行分莊
啓者本行開設於元神廟街精工自造羊肚手巾東洋緊身洋式襪子以及各樣雜貨俱全無不精美價值格外從廉賜顧者請光臨本行面閱是幸 丸三洋行分莊謹啓

永順洋行
本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議
西北街 東櫃（電話九十五番）
西義順棧內 西櫃（電話九十八番）

代代木烟公司
本行專售 日本官造紙烟 星象牌（斯達）櫻花牌（摅利）百合花牌（利利）均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆治來福）清香撲鼻佳美適口而價值極廉 諸尊欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

本行瀛船 摩耶山丸 頼朝丸 專往東洋各埠
啓者本行開設在東營口輪船代理店海上火險公司及報客稅已有年矣今承關東總督府之特准開設東清鐵路公司運送貨物自牛家屯大連至昌圖府均有分棧大連鐵嶺另有分行并各有中國人辦事今又設理雜貨生意專辦上等石炭棉花火柴洋布旭牌卑酒日本清酒一概俱全另有清國人執事如蒙中外士商光顧請來元神廟街爲荷 松茂洋行（電話五十二番）

三井 電話 第六十六號 第九十一號
啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗、棉布、火柴、煤炭糖、海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近恕蒙各商光顧請駕臨是荷

○發售新到洋白糖

倉庫部
今回倉庫所在地（青堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は同所へ御照會被下度願上候（電話百二十八号）

○發售日本白米

經理
○明治火險公司
本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議

○東京水險公司
啓者本公司開設在三井洋行內已久實存資本百五十萬元、分行、新加坡、倫敦、孟買、天津、上海、香港、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保平安、水漬、兵險者、請駕至本行面議

洋行 電話 第六十六號 第九十一號

生徒募集
營口瀛華實學院 招入學生
今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し猶ほ督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし 營口 瀛華實學院
本學院肄業諸生頗着成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便茲因添設樓宇地勢寛宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午四點過期不候特白
營口瀛華實學院

東清鐵道 周 裕和盛運輸局（電話八十一號）
在東營口西北街旗昌洋行對門
啓者本號向在日本長崎開設數十年并分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟兼代客報關裝船裝車今又承辦東清鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧 總司理主人 周鶴雲 運輸部主任 高濱麟太郎 謹啓

材木 荒物 販賣
秋田洋行
營口永世街第一八四號 ﾑ野町
本店 下關 秋田寅之輔商店

稅關手續
一船舶代理 一貨物取扱 一委托販賣
營口英國領事館東首 綏定門街第五〇
弊公司昨年開業爾來引續キ營業罷在候處今般一層業務ヲ擴張シ艀船、市內貨物運搬及貨物保管等確實敏速ヲ旨トシ殊ニ爲替付荷物及諸雜費等御依賴ニ應シ御立換可仕尚其他精々御便利ヲ相計リ可申候間倍舊御用仰付ラレ度願上候也
三仁公司（電話一五〇號） 小島榮歲

上海 中井洋行 專運日本各式紙料
本行開設已歷多年曾與日本製造名廠有專銷之約凡新聞紙料印書籍各式紙訂莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本行出售 貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也 中井洋行

一、東清鐵道貨物取扱
一、貨物集配
●瀛車貨物積卸シ
右は安全、速達、誠實、廉價を旨とし精々御便宜を計り申候間多少に拘はらず御出荷奉願候
關東總督府特許 丸重洋行 營口西北街（電話二八番） 牛家屯停車場構內（電話四六番）

●雜貨卸小賣商 附日用食料品
●菓子製造販賣商
●委托販賣商
●土木建築受負業
●瀛車積運送業
新民府孫家街 東洋號

新荷着
▲板材木 ▲木炭 ▲生石灰 ▲竹 ▲亞鉛板 ▲洋釘 ▲日本米 ▲疊
喜久洋行 營口永世街八十號（電話百五十二番）

太古輪船公司
啓者本公司自派溫州牛莊兩輪專走營口登州龍口一往一來接續不斷搭客配貨均由本行碼頭上落甚屬利便水腳素來公平船上應酬搭客無不週到歷經數年遠近馳名知者稱便用登報端以期廣告 營口 太古輪船公司

啓者有遼陽聚豐隆在遼買東升廣會票一張計廣字元號聚豐隆名下營平銀壹仟零柒拾兩正係營口永遠興照付又買天和福一張字一百六十二號聚豐隆名下營平銀伍佰參拾伍兩係營口廣順棧照付又遼陽廣興義托聚豐隆客人王輔臣帶來營信內附會票一張在遼買公立公司公字二號泰峯鎮名下營平銀壹仟零柒拾兩係營莊匯源達照付以上會票於清歷三月初九日由遼陽乘火車赴營晚一點鐘行至牛家屯東在火車內被匪人切去並失去手票爲此聲明無論落在何人之手作爲廢紙望各中外官商切勿收用特此登報勿謂言之不預也
清歷三月十二日
遼陽 廣興義 聚豐隆 二家仝啓

Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office. Newchwang.
Telephone No. 29.
發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社（電話二九番）

東京電報

●外交官の清國派遣

今回奉天總領事に任命せらるゝとに内定せる大使館一等書記官萩原守一氏は或用務を帯び清國派遣を命ぜられたり (四月九日發電)

倫敦電報

●炭坑の救助作業

佛國ニーリエル炭坑慘事の救助作業に從事せる技師等は檢察官の告發する所となれり昨夕一の坑道内に於て爆發當時埋沒したる馬丁一頭猶生命を保ち居りしを 見したるより慘死者の遺族等は救助作業の一層早かりせば多數の生命を救ひ得べかりしならむとて技師等を追責し技師等は僅かに身を以て免れたり

●英國水兵の同情

英國海軍の水兵等はポーツマス軍港に於て集會を催ふし同會の發起にて廣く檄を内外各地に散在せる同國の水兵全体に飛ばし日本饑饉民に對して寄附金を募集する筈なり

●伊國の大噴火

伊國の火山ベスビウスは大噴火を起し新たに一火泉を現出せり (以上四月五日發電)

●獨國首相の卒倒

獨國首相ブオンビユーロー公は議會に於てモロツコ問題に關する一場の演説を爲せしが忽ち卒倒し人事不省の儘其家に送られたり

●救世軍創設者の來遊

英國救世軍創設者ブース將軍は來る九月を期し日本に遊ぶ由來訪者に語られたり (以上四月六日發電)

雜報

●遼陽通信

安齋源一郎

遼陽釀造塲を觀る

▲味噌工塲 は遼陽西關街にあり舊支那燒酎蒸溜所の家屋を賃借して茲に設く三十八年一月十五日を以て始めて釀造に着手五月中旬を以て日々三千貫目の製造を爲すにいたり今日に及べり

▲醤油工塲 これも味噌工塲に隣したる家屋を賃借して充用したるものにして三十八年五月初旬を以て業務を開始し日々二十石宛の 油を軍に供給して今日に至る

▲釀造總高 遼陽釀造塲は滿洲軍倉庫遼陽支庫の監理する所に係る大阪釀造學校出身縣技師之を管す昨年一月創立以來軍の全体に供給したる味噌の量數は今二月二十八日迄に於て四十九萬六千三百四貫匁にして尙現在するもの六百貫匁あり以て守備各隊に今尙配給しつゝあり又同塲釀造の醤油配給高は昨年開釀以來本年二月末日迄に五千四百七十五石一斗八升現在するもの百五十石之れか原料たるべき麥千石あり之れ又守備軍隊に繼續供給せんとする所なり

▲味噌釀造費 却說遼陽釀造塲は如斯多額の味噌醤油を供給したりと雖も之れか原料たる鹽、豆、麥等は戰利品にして又麹は癈米を以て之れに應用したるか故に原料品一も購入したるものなし其他の費用は主として燃料及人夫の給料等に過ぎずして味噌一日の生産高三千貫目に對し僅々六十五圓十五錢五厘にして味噌一貫目を得るに費す所二錢一厘九毛なり仍本年二月迄に各軍隊に配給したる四十九万餘貫目の味噌の實價は一万二千百十一圓四十八錢七厘六毛なり若し假りに現時の營口の時價十貫目七圓五十錢の相塲を以て計算するとすれは實に三十七万二千二百二十八圓(戰時中は味噌の市價營口にて一貫目一圓乃至一圓廿五錢)なり

▲醤油釀造費 又釀造醤油に就きて言んか同釀造塲か百十三石七斗五升の醤油を得るに四十六圓〇五錢一厘を要し製品一石の價は三圓三十四錢五厘に丁る之れを大連の河又醤油店が特に本店に協商清國人と特約し支那醤油の京醤と競爭せんとして特に釀造したる支那向醤油の大連相塲一樽一圓八十錢也樽代の四十五錢を控除し之れを八升に割るときは一石の單價は十八圓八十七錢五厘に丁る此價格を以て同釀造塲が各軍隊に配給したる醤油の價格を算するに十万四千九百三十三圓五十錢といふ數を得之れは最も低廉なる醤油價格に比較を取りたるものなるも尙一石に付十五圓五十三錢の差あり之れを合計の釀造石數對比すれは實に八万六千六百三十六圓三十玉錢の利を見る然り味噌と此醤油との純利益は四十四万六千七百五十二圓八十六錢二厘四毛之れ即ち遼陽釀造塲が直接滿洲軍を利したる計數たる也

▲ウヰスキー釀造 同釀造塲は更らにウヰスキーの釀造を爲さんと欲し舊臘より器械の据付に着手此三月上旬より試釀に着手せり未た試釀中に屬し成績を見る能はさるも早晩好成績を見るべきや論なし此ウヰスキー釀造も亦癈物利用の意に出つ即ち各倉庫にある腐敗清酒の數量八百石あり先つこれを變釀醇良なるウヰスキーを得んとするにある也

●與倉軍政官の歸營

軍政事務報告の爲に上京中なりし與倉軍政官は一昨日午後一時五十五分牛家屯着列車にて夫人同伴歸營せり出迎の主なる者は黑澤副税務司、蠟山西税關長、太田領事官補、中村正金支店長、井上三井支店長其他軍政署員、日本人會評議員、清國公議會員等にして無慮一百餘人の多きに達したり因に當日軍政官は出迎人と共に小蒸滊船にて歸營し夫人は中村正金夫人等と共に馬車にて陸路歸營せりとなり

●一昨日の釋尊降誕會

豫報の如く一昨八日は恰も釋尊降誕日に相當せるを以て市內各宗出張所に於ては夫々法會を執行せるが先づ永佃街本願寺出張所に於ては朝來莊嚴に式塲の飾付を爲し午後一時頃より有信の善男善女は遠近より踵を接して來會せしが如來の御尊影に跪きて燒香禮拜を爲し豫定の午後一時及び八時の兩回に於て寺本布敎師は宗敎上の大禮服を着して最も嚴肅に讀經せられ引續き『佛とは何ぞや』との演題にて懇々と說敎せられ多大の感動を來會者一同に與へ特に又夜間は信徒より供養の花に代へて寄附せる紅提灯へ點火し晝夜共來會者一同へ供養の菓子を頒ち滿塲立錐の地無き程の來會者にて頗る盛况なりき又妙心寺派及び淨土宗の合同に成れる日本人會々議室に於ける同降誕會は同じく午後一時を以て開かれ室内は悉く萬國旗を以て飾られ正面には美麗且つ精巧なる花御堂を据ゑ準備萬端遺憾無く來會者は吉井主計細井軍醫等を始め民間有信の士女六十餘名にして古川恒川兩師の讀經あり終りて來會者は馥郁たる香水を以て神心を浄め甘茶を汲んで灌佛し次で恒川師は『宗敎と信仰』なる演題にて古川師は『唯我獨尊』なる演題にて何れも懇なる法話を試みられ終りて來會者一同へ菓子及び甘茶を頒ち午後四時頃散會せり今回は營口に於ける始めての釋尊忖に拘らず兩所とも意外の盛况なりしは各主催者の大に滿足せる所にて尙明年よりは今年に倣ひ各宗とも更に一層盛大に執行すべしといふ

●與倉軍政官の遼陽行 軍政官與倉中佐は長途の疲勞も厭はず署用の爲め本日發途關東總督府へ出張せらるゝと云ふ

●摩耶山丸積荷 昨日午後二時出帆摩耶山丸にて門司揚豆粕三万九千一百枚搭載乘客門司行七名神戶行三名なりと云ふ

●日の出丸積荷 一昨日出港日の出丸にて長崎揚け豆粕四千百枚及び牛骨二百十三俵搭載乘客長崎より七名なりと

●日勝丸の入港 松茂洋行滊船日勝丸一昨日午後入港せり揚荷は砂糖百七十俵及朩材千三百四十個船客四十八名なりと

●潮洲丸停船を命ぜらる 大阪商船會社滊船潮洲丸は一昨々日當港へ入港すべき筈の所神戶解纜後一週間より經過せさるを以て其筋にては撿疫規則により三日間港外に停船を命ぜられたりと云ふ因に外國より來る船舶は總て仕向地より十日間を經過せされは入港を許されざる規定なれは各船主は此邊充分注意すべき事なり

●新開代議士の來營 德島縣代議士新開貢氏は二三日前來營東京樓に止宿し昨今專ら營口の商業に付き調査しつゝあり尙ほ同氏と同宿せる野間五造氏は昨日夜行列車にて大連に出發せり

●早稻田大學第五回同窓會 一昨日第六時より日本町祇園閣に於て第五回同窓會を開催せしが來會者は何れも當年早稻田の健兒にして酒間幹旋する者は關內選抜美姬なれは宴漸く酣に及ひ耳少く熱するに當りては議論に骨稽に隱し藝に論する者、歌ふ者、唸る者、演ずる者、相次で歔聲笑語湧くが如く殊に野間五造氏の長唄新開貢氏の淨瑠璃衆三味線は一段の興味を添へて一塲恰も崩るゝか如く實に近來に無き盛會なりき尙は當日出席せし者は左の八名なりと云ふ

河村重治　野間五造
藏内正太郎　野間芳太郎
増田英一　久間九郎
宮井治一　新開貢

因に當日の出席者か僅々八名なりしは都合ありて急速に思付きて開催せしか爲に廣く一般に開會を通知する能はさりし爲なれは更に遠からさる中に改て春期大會を開催する筈なりと云ふ尙は當夜の出席者は昨日御門寫眞館に於て揃ふて撮影せりとなり

●人物月旦

覆面郎

松倉善家君 (上)

少年時代に於ける松倉氏か唯一の嗜好は武藝の練習にして、殊に柔道及び擊劍は一段の好物にして殆んと寢食を忘れて修練し、以て其の上達を樂めり、今日に於て彼か宛も瘦狼の如き身幹の下に腕力の侮辱を擔保して、茶碗躍り井飛ぶ亂鬪塲裏尙は且つ平然として大語し、寸毫の不安と危險を覺へさる者は即ち之か爲めならしとせす。

少年時代に於ける彼は斯の如く武道の修練を以て無上の愉快としたる者、從ふて將來に於ける希望も砲煙塲裏の龍鬪虎擊に在りき、馬を陣頭に立て腰間の秋水抜き放ち叱咤一聲三軍を督勵するは少年時代に於ける彼か最上の希望なりしなり、蓋し彼は軍人に最も適應せる氣質を有する者、且つ武道の嗜味も人並み勝れて一段に深かりしに於てか、軍人は其の最も適應せる職分と謂ふに足る、若し則ち後日に至るも志望を變する非ず、一貫して益々斯道を修練するありたらば、好個の武將として相當の地歩を有し、今次の戰役の如き天晴功を奏して、內外の嘆賞を博したるも未た知る可らず、則ち三軍を叱咤するの理想は、決心次第にて彼に於ては必すしも望み難き希望には非さりしとす、幸乎不幸乎、彼は其後ち熊本に於て荒尾東方齋を訪問して甚た感動する所あり、遂に軍人志望を放擲するに至れり、則ち軍人志望に次て新に彼い志想せし者は志士也、有志家也、江蘇浙江を其の米櫃に算き、頃は明治の十八九年、荒尾陸軍少尉命に依り第六師團附として任に熊本に從ふ、荒尾陸軍少尉とは抑も何者ぞ、支那浪人の氏神東方齋荒尾精、正に其人也、即ち彼は其の官等未た僅に陸軍少尉に過ぎざりしと雖も、烱眼當時に於て既に清國の今日あるを觀破し、閑あれは清國の事情を研究し以て其の知見を增進すると同時に、熊本の地の由來慷慨悲歌の士に富むを知り、進んて有爲の青年に交を結ひて親善し、口を極めて清國の將來を述へ、邦家として固より個人を以て見るも、尙は豫め備へて後日に應する事の甚た必要なるを切論し頻に清國事情の研究を慫慂せり荒尾宗の信徒か熊本に於て甚た多きは蓋し此邊に基く也、彼は實に一代の烱眼家にして、又洵に近代の偉人なりしと謂ふへし、聞之く彼か青年を集めて時事を談するや、其狀慷慨にして其辭悲痛、加ふるに論理明晰にして引證亦た的確、殊に對清意見の如き、其狀一層慨然として其辭亦た一層悲痛を極め、聽く者爲に血湧き肉躍るを覺へたりと熊本有志家、井手三郎、宗方小太郎氏の如き聽者として最も腕を撫したる者なりと云ふ、顧れは松倉善家氏は當時十七八歲にして、恰も男子一世の亂暴時代中其の最盛時期に在りたる者、夫れ然り、而して彼は此の時に於て、又た郷の友人某々等と共に時々荒尾宗を訪問し其說敎を諦聽せり、其人は豪快の氣に投し、其敎は疎放の質に適し其說は、覇氣を滿たすに足るは、蓋し荒尾宗の本色に非るか、豪快疎放、誠に彼か如く、加ふるに青春妙齡、血氣燃ゆるか如き覇氣橫溢せる時に於て、荒尾宗を訪問す、宛も之れ薪を抱ひて火に投する者也、遂に火の移らさるを望むと雖も豈に得べけんや、果然、彼は暫時にして信仰心を生し、翻然として大悟し、軍・志望を一變し、遂に熱心なる其の信徒の一人に加盟し、風蕭々として易水寒しを口吟し、全く燕趙悲歌の士を以て任ずるに至れり、荒尾宗も亦た難有からずや、夫れ馬を陣頭に立て、腰間の秋水を拔き放ち馬上遙に叱咤呼號し、以て三軍を指揮督勵するは、彼か唯一の希望にして、同時に最終の理想なりき、而して彼は今や新なる希望と新なる理想を以て、老清國の將來に注目するに至れり、新なる希望とは何んぞ、新なる理想とは何んぞ支那の病源を探求して一大手術を施し、以て鋭氣の恢復を企圖するは其一也、清國の二三省を、米櫃に代用せんとするは其の二也、知らす軍人と志士、抑も何れか彼に於て最も適當せる。思ふに志士も軍人も大差なかるへし、官に在れは即ち軍人、野に在れは即ち志士、一方は人爵を以て名譽とし一方は天爵を以て名譽とし、一方は人命に依りて行動し、一方は天職に依りて行動する等の別無きに非すと雖も、其執る所の職守る所の志に至りては、歸する所殆んど同しと云ふも可也、唯た志士は重んずる點に於て、動く點に於て、其他尙は何處かに、軍人に比すれは崇高偉大の個所あるを認らるのみ。

投書かご

▲女居候の處分案 營口花仙によつて某病院の何田看護婦の許に女居候が三人居るといふので自分は物數寄にも美源探檢と洒落れて取調た結果其報道の間違で無いといふとを知つたのみならず何んでも某料理店の板塲風情に誘拐せられて來たものらしいとをも確めた三人とも看護婦の見習をするやうな希望は勿論無いが左ればとて身を賣つて泥水の中へ飛び込まうといふ考もまだ無いのである併し彼等三人の身邊には種々なる誘惑物が十重二十重に取圍んで今頻りに邪道へ導かんとしつゝある危險の情態に在るのであるから我輩はどうにかして此清浄無垢なる處女を辱しむると無しに相當の職業に就かせたいと思ふのである其方法として當營口には女中の缺乏が甚しいので鵜の目鷹の目で探し立てゝ居るとは貴社の投書籠で見るも明な事であるから斯る渴望者へ夫れ〳〵片付くるとしたら如何であらうか愚圖〳〵して居る中に若しも悪漢の口車に載せられて一たび泥水の甘みを覺えたら夫れこそ可惜人間を殺して仕舞ふのであるから是れは是非とも確實な家に早く奉公でもさせて神聖なる勞働によつて一身の計を立てさせたいものである併し確實な家と言つても獨身者の處は眞平御免を蒙らなければならぬ獨身の家に置くなら寧ろ早く身を賣つた方が得である我輩は此瞬間迄玲瓏玉の如き潔白な物が瞬間の動機によりて糞土の如き汚穢の中に墜落せんとする人生の最大悲慘事を見て默するに忍びず此に鄙見を陳して大方の一考を乞ふのである (物數寄男)

●嶽南曾遊記 (上)

蒼然逸人

頃日東京日々新聞紙上桃花紅と題して江戶時代芝新錢座にありし有名なる江川太郎左衛門氏の設立に係りたる私塾の舊事談を見たが、中に予が少時親しく言語を接へし二三の人の噂抔ありし故にもや、坐ろに當時の偲ばれて覺へず趣味の津々たるを感じだ、依て予も亦其顰に倣ひ、渺漫として津涯を見ざる東海の濱、屹として雲表に聳ゆる富嶽の南麓、沼津城頭に校旗を翻へしたる靜岡藩立兵學校に於ける予が曾遊談を讀者に紹介するのである、併し桃花紅は西施の顰だが予が曾遊記は無鹽の顰だから醜惡見るに足らず讀者をして津々の趣味を覺へしめざるの罪は予の甘受する所である、回想すれば維新後德川氏が駿遠二州に封せらるゝや幾くもなく、地を氣澄み水清き沼津にトして學校を興し一藩の青年子弟に軍事敎育を施した、之を沼津兵學校と名け尙は此下に一種の豫備校の如きものを設け之を單に小學校と稱へた、當時此兩校にて授けたる學科の若さは今より見れば頗る奇異雜駁のものであつた、其一班を擧ぐれば小學校の最終卒業試驗は五經の素讀、國史略十八史略元明史略の講義、算術は諸比例、開平開立、對數の用法抔であつた、兵學校に入れば英學若くは佛學の中、學生の望みに隨ひ一科を授け、數學は代數、幾何、三角法尙は進んでは解拆幾何、高等代數等、物理學としては博物新編、機械觀瀾等の漢譯本を用ゐた、画は鉛筆画を授けた、術科は學科に比すれは較ゝ整頓して居つたやうに思ふ、小學生には毎日一時間つゝ徒手体操進んでは器械体操を演習せしめ、別に一週一時間つゝ擊劍を敎へた、兵學生には毎日步兵操練若くは或る生徒を限りて砲兵演習を行はしめ一週一時間つゝ乘馬術を習はしめた、夏期一個月の休暇中には兩校通して毎日狩野川の清流に於て水泳術を演ぜしめた、當時兵學校の生徒を資業生と稱へ藩より一個月四圓つゝの學資金を給した、僅々四圓、今日の學生に聞かしめたら定めし僅々四圓と云ふだらうが、當時予は此の四圓を以て滿足したものだ、獨り予のみならず一般學生は優に此金額の範圍內に於て學業に從事し累を父兄に及ぼさしめた樣な話を耳にした事はなかつた、當時學生の風儀の粗朴質素なる掬すべきではないか、偖此校の學術は略ゝ上に叙したる如きものであつたが、當時にあつては全國列藩は勿論中央政府の直轄に係る軍事敎育をも凌駕した程に卓絕した觀があつたものと見へ二三他藩よりの留學生もあつた、越前福井藩の若さは俊秀の青年七八名を撰拔して留學せしめた、近頃は餘り噂も聞かぬが彼の遞信次官として金時計一件にて浮名を世に流したが兎に角才名嘖々たりし齋藤修一郎氏も亦此留學生中の一人であつた。

大車
▲上行車時刻表
▲下行車時刻表
稅關手續
船舶輸出入荷物取扱
荷物保管
諸鐵工製作 川鐵
當一座儀日本各地に興行し大方の御愛顧に據り好評を博し來り候處今般御當地好劇家の御招聘を被り來る四月九日より日本町 座に於て興行
天氣豫報 營口地方 自九日午後六時至十日午後六時

小説

新作小説 **おとし胤**（三十一）　徳田秋聲

此の手紙の文意に依ツて見ると、光の一身は、不思議の塊となツた。世にも稀な不幸な身の上となツた。彼女は最早浮上ることの出來ぬ不幸の淵へ陷ツたのではあるまいか。

健三は實に、居ても起ツても居られぬ心地である。

「もう取返しの付かぬことになツて了ツた。俺が炭燒場まで行ツたばかりで、光さんに此の手紙を渡すことが出來なかツた。此の手紙を見たら、光さんだツて、豈夫に行く氣にはなれなかツたらう。」

百千度悔いても及ばぬとは此のこと。健三は幾ら悔んで見ても、此の手紙が光に渡されるもので無い。

「光に渡されぬとすると何うする？………此の手紙は何うしやう。」

これが健三に取ツて大問題である。設誰に渡すとしても、手紙の封を切ツて了ツた。實を謂へば、これが光に渡せるものならば、封を切ツて置いても、左程の心配は要らぬ。二言三言詫れば、それで濟むで了ふ。

雖然光に渡されぬとすれば、無論彼の波川入郎といふ巨漢に返さなければならぬ。返すは何んの雜作も無いことだが、手紙の封を切ツて了ツてある！　封を切ツた手紙が、何うして返される？

「とすれば、何うする。何うすれば、此の手紙の始末が付くのだ。」

解らぬ、解らぬ。何うしても解らぬ。健三は、たゞ煩悶するばかりであツた。

「然うだ、何うせ永く此方にゐる人で無いのだから、寧そ逢はないやうな工夫をしやうか。何有、三四日炭燒場へでも行ツて居れば、事が濟むで了ふ。」

既に光に、此の手紙を渡すことが出來なかツたことだけでも、彼の巨漢に逢はす顔が無いのだ。それで健三は、殆ど然う定めて了はうかと思ツた。

雖然彼はまた思直した。

「それでは餘り卑劣だ。罪の上塗をするやうなものだ。」と考へて「殊に俺は、何うしても、も一度那の人に逢ツて置かなければならぬ。逢ツて、那の人は、此の後、光さんに對して、何様な所置を取るのか其を聞かなければならない。」

何方にしても、逃げて了はうといふのは面白くない爲方だ。

「そんなら何うする？」

彼はまた、頭が痛くなるまで考へた。そして、手紙を落したといふか、手紙は光に渡したといふか、此の二ツの方法の一ツを擇ばなければならぬことに考が定ツた。併し何方にしても詐だ、健三は、何れにしても更に罪惡を重ねなければならぬ。

「情ないことだ、俺は何んだツて、此様な惡いことを爲なければならぬやうになツたのだらう。」

と歎息した。幾ら歎息しても爲方が無い。今となツては是より他に好い方法が見當らぬ。

此くて健三は、此の夜寢ても寢つかれず、遂々、まんじりともせずに夜を明して、翌る朝、刻限を見斗ツて、共同墓地へ行ツた。何様に煩悶したのか、其の顔は、何んとなく燻むで、誰が見ても、恐ろしい心配をしてゐることが解ツた。

心の内で、成べくならば、彼の波川入郎といふ人の來て居らぬことを願ひながら、胸をどきつかせて、共同墓地へ入ツて見ると、幸にも尚だ其の人の影が見えない。

「可かツた、可かツた。彼の人の來ないうちに、幾らか考へる猶豫がある………考へたら、また、好い工夫が出て來るかも知れない。」

と思ひながら、光の母御の墓の前へ進むで見ると、墓の上に、また何か紙片が載せてある。それが、昨日那の手紙が眼に付いたやうに、健三の眼に付いた。取上げて見ると、

御依托致せし手紙は、多分光孃の手に渡らざりしものと推察致され候、何も天命なれば致方なき次第に御座候。小生某所にて光孃の姿を認め、直に追駈候へ共、少しのところに汽車に乘後れ、明朝一番列車に歸京致す事と相成り候、貴所にも是非共今一度お目に懸り度存じ候へ共、重要なる用事を差扣居り候まゝ其の暇無く遺憾此の事に御座候、就而彼の秘書の儀、次にお目に懸る折まで封のまゝお手許に止め置き下され度、貴所を信じて深く御願申し上候、但し何人にも秘し置かれんことは兼て申上し通りに御座候、尙寛齊先生のところは、貴意の如く光孃に成代つてお世話なされんこと切望に耐えず候、眞の人は理想に依つて活くるものに御座候、早々頓首

とは波川入郎から、健三に當てた手紙であツた。

健三は、思はず吻ツと息を吐いた。兎に角これで罪を重ねる猶豫が出來た。

●營口花信

▲祇園閣のハーちやんは近頃元神廟街の何洋行の鹽茄子のやうな萎び爺さんを手捕りにして借金も拂つて貰ひ衣裳も五百圓がた拵らへて貰つて愈々落籍と定まつたので爺さん大恐悦であつた所其の中に水をさす徒ら者が出來てハーちやんは舊の如く祇園閣で勤めるとに爲つたんで老頭子大悄氣に悄氣て居るとは御氣の毒様でげすな▲お俊坊は此頃放免に爲つて又々座敷へヘイ今晩はと出し掛けるとに爲つたが此程或懐のフカ〱した御客の座敷で三味線を聽かされて到底見惚れてボンヤリして了つたげな三味線にボンヤリしたんで無くてフカ〱したのにボンヤリしたんだらうとは皮肉屋の言である▲金波樓の金波君は此頃頻りに第二市場の附近をうろつき廻はる殆ど毎日のやうである トロツクの監督にでも爲つたんですかウツかりして立て居ると馬に蹴られますぞ▲醉月の太郎どんは雲隱くれをしてまだ出て來ないさうぢやが多分お日様に緣故ある船長殿が持ち逃げしたのだらうとの噂であるから雲隱れぢや無くて船隱くれして居るかも知れぬ▲營口花界の大問題三井の御祝儀はどうも帳場が怪しいさうぢや出した者があつて受取つた者が無い益々奇怪である▲加古さんの令夫人新子の方は旦的が金を儲けると五百圓の恩賞に預るので其恩賞を懐にすると祇園閣又へ戻つて來て中村さんの歸つて來るのを網張りにして待ち受ける作戰計畫のさうぢやげな凄いこと（自稱粹人）

乙巳初冬書懷　大石橋　早川峽南

愧吾隻字寄君無詩膓固依杯酒疎滿腹文章成底用中原戎馬正堪虞亞洲今見開危局寰宇誰能壯覇圖傷感三更眠不得破窗颱雪一燈孤

和早川峽南詞兄書懷原韻　耀州　秦英舫

欲和鸞箋一字無干戈滿地世情疎詞詩俊逸空談鮑楷法端凝狂羨虞把酒醉觀千古史挑燈朗閲五洲圖勸君風雪休傷感宇宙從來德不孤

春の海　黄雨

和田の原けさは霞のたなびきてこぎゆく舟の數や知られん

同　東村

たちこめし霞をこめて舟人の聲のみきこゆ春の海原

同　孤山

わたのはら沖しつかに立てこめし霞たとれる蜑の釣舟

廣告

歸任の節は遠路態々御出迎を辱うし御厚情深謝し奉り候此に略ながら紙上を以て御禮申上候

四月十日　與倉喜平

僕回任時、蒙諸君郊出、極意歡迎、自慚無德、何以堪之、特錄報章、藉伸謝悃、

四月十日　與倉喜平謹啓

廣告

一生石灰　五千鑵

入札保證金各自見積代價百分ノ五以上

右購買す入札望の者は本月十三日までに當署經理課に就き入札心得書、契約書案、見本熟覽の上同十五日午前十一時入札すべし即時開札す

此契約は營口軍政官與倉喜平担任す

明治三十九年四月一日　營口軍政署

法律事務所の開始

生儀前ニ判事并ニ地方法院長等の官職に歴任し及び辨護士の職務を行ひしこと多年今般民刑訴訟の代理刑事被告事件の辨護訴訟事件の鑑定契約書起案法律顧問等總て法律に關する諸般業務の依頼に應ず

營口永世街金城館南隣り　**小林法律事務所**　從七位勳六等　小林一生

○但し應接時間は午後四時限り夜分の面會は絶對に謝絶す

爲替劵盜難廣告

弊號（聚豐隆）は先に遼陽東昇廣より爲替劵廣元號聚豐隆名下營平銀壹千七拾兩營口永遠興の支拂に係一通及仝地天和福より宇字百六十二號聚豐隆名下營平銀五百三十五兩營口廣順棧の支拂に係る一通又弊號（廣興義）は遼陽公立公司公字二號泰峯鎭名下營平銀壹千七拾兩營口匯源達の支拂に係る一通、を受買け以上三通を遼陽聚豐隆の客王輔臣に托し淸曆三月九日遼陽より滊車に乘し牛家屯に達せんとする翌午前一時頃車内に於て盜賊に刼かされ前記三通の爲替劵及所持金を奪取せらる依て前記三通の爲替劵は何人の手に渡るとも全然無効に付茲に紙上を以て特に廣告候也

月　日　遼陽　廣興義　聚豐隆

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時

一往診　午後三時より

▲患者の入院治療を諾す

▲貧困患者の施療は正午十二時より二時迄

姙婦の入院を諾す（産婆大道しげ子）

院長　醫學得業士　森矯

副院長　醫學得業士　長船郁太郎

◎院長森矯久敷歸朝中の處今般歸營診療に從事す

◎本院齒科開設　齒科醫　兒島市郎

本月十五日より開設す　森病院

廣告

齒の衛生治療は一日も等閑に附すへからす然るに當營口に良齒科醫無きは予輩の最も遺憾とする所なるを以て今回二三有志相謀り目下天津佛租界に於て開業し内外人の信用を博せる齒科醫田添豐三君の出張治療を乞ひ本日より約三週間許治療に從事せらるゝを以て齒患に艱やまるゝ諸君及ひ齒の衛生を重んせらるゝ諸君は此好機を逸せず續々治療を受けられんとを望む

追てマンシユリヤハウスに於て治療せらるべく豫告仕置候處仝方に差支を生じ候爲四五日の間日營ホテル一號室に於て治療せらるゝ事と相成申候

四月十日　營口有志者白

Y.W.　和田保　牛莊分莊　本店大阪莊

品種價格等は大阪朝日、毎日、新報、神戸又新、和田保商報等の物價表御覽願上候

和洋會席御料理

一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉強仕候

營口永世街二本町　**日本館**（電話百三十）

各位様

鐵嶺　西門外大通　**御旅館　御料理　福屋**

大阪商船會社荷客取扱所　内外船舶代理係貸借仲立　輸出入稅関手續

最近內地行滊船

御代丸　四月八日出帆門司直行

日の出丸　四月八日出帆長崎門司行

摩耶山丸　四月八日出帆大連門司行

解船人夫運搬請負　諸品委托賣買　水陸輸送貨物仲次所　倉庫業

西北街　德重洋行

御旅館　豐陽館　上海（電話一〇六番）

日本郵船會社荷客取扱　歐米滊船乘船取扱

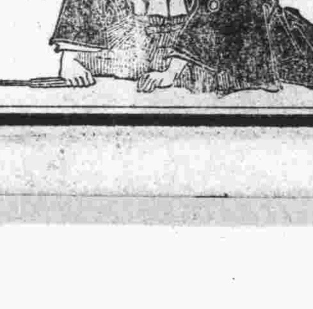
館主　米田藤吉

千客万來

料理部開業披露

弊館是迄旅館專業に御座候處今般新に料理部を開設し聊か紳士諸君の御引立に報ひんと存候就ては座敷向き等も凡て改築仕日本式の粹を拔き藝妓仲居も弊店付として内地より二十五名計り呼寄せ特に料理は東京有名の厨士を聘し材料に乏しき當地にては不可得珍味佳肴を供すべく一切の準備相整愈々本日より安直を旨とし開業仕候間何卒賑々敷御來遊の程偏に奉希上候

追而料理部開業と共に旅館部にも改良を施し御客樣の御便利御計可申候間不相變御引立の程願上候



旅館　第一營口ホテル
料理　第一樓（電話八四）

山縣光雄

奉天日本旅館　**瀋陽館**

家屋宏壯清潔　接待優遇懇切

開放全時一開業　奉天小西門外ナ街路北

料理

滿月　平の町（電一六二）

滿月支店　平の町（元都樓跡）

店主　[illegible]

CARTRIDGES.

We have just received a large assortment of Sporting Cartridges for 8, 10 & 12 bore Guns which we are prepared to supply at moderate prices, cash with order.

Apply to,
BUSH BROS.

獵銃彈新荷着
第八、第十、第十二號獵銃彈新荷到着廉價にて販賣致候間多少に拘はらず御注文被下度候
但貸賣一切御斷申候
ブッシ商會

胃腸病新藥
消化劑
糖化素
医学得業士 矢島氏發見
滿洲特約一手販賣
東瀛大藥房 營口大街

本劑專治脾胃失調飲食不化之諸症飯後脾胃疼痛過用米麪積滯腹泻脚軟心驚婦人懷孕患嘔吐之症熱病稍愈腸胃未爭於調和又如飲食胃口不開肝胃氣痛肚腹膨脹兩佰芸滿之諸症均有卓効
醫田考日本殿與得業十 矢島猴太郎 謹白

Yano & Co.
矢野洋行
電話一三七 Telephone No. 137

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段ハ極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候
謹言

清國營口二本町二五五號
主任 鹽川峯吉（電話一三六番）

發賣 材木 棕子 木板
鹽川商會
遼陽小西門內 鹽川商會 ●建築

外に
電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本
用材北海道產松大角（自廿五尺至三十尺）一万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

旅人宿 東館
大連市信濃町卅九號地
特別ト親切ヲ旨トシ且ツ廉價ニ御取扱可申候

醇良自釀清酒

札幌ビール
朝日ビール
口付莨大和
酢
醬油 瓶詰樽詰
菓子
鑵詰 色々
洋酒類
右取次販賣
牛莊港東營口
宅合名會社
營口支店

大日本東京
本山崎帝國堂葯房處修舖

腦丸
天授

天授者天下多多有咳嗽藥中之冠也
たんせき、ねつさましの一切の妙藥

腦丸者天下唯一之腦病靈藥也
腦病の名藥にして他に類なし

大清國
營口大街（永世街二本町）
藥司洋行 淺野爲三郎
藥劑士
福壽堂 大葯房
醫械藥材 有名靈藥 總發賣處
總批發處

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣

江副洋行
營口永世街

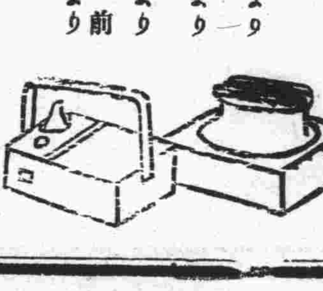
萬事勉强
營口中央市場前
旅館 東京樓
店主 熊山兼次郎（電話七十八番）

御席和洋料理 東京樓支店（電話四十四番）
西洋料理仕出し御需に應ず

一料理用白味噌、赤味噌、
一煙草類、東京淺草海苔、木萬醬油、白米、鰹節
一罐詰類、
一瓶詰雲丹、酒盗、コノワタ、
一清酒澤龜特約並に瓶詰、
一酢、ビール、葡萄酒、洋酒類、
其他日用品乾物雜貨新荷着仕候に付多少に拘らず御用仰付られ度伏て奉願上候也
東營口永世街第廿八号
雜貨商 大原洋行

質屋營業
諸々勉强御便宜相計り可申上候間多少に不拘御仰付け被下度願上候
營口永世街南憲第三十六號
北斗洋行質屋部

御手輕料理
一釜飯 御一人前 五十錢より
一卷壽し 一本 十五錢より
一湯豆腐 一壺 廿五錢より
一東京壽し 一人前 卅五錢より
右之外御誂に應ず



營口元神廟街二〇九號
月 日
翁亭

銘酒 白鶴
諸雜貨
今般新荷着仕候に付ては卸小賣とも是迄の賣直段より壹割引
酒及米、鑵詰類は五歩引を以て販賣仕候間多少に不拘御用命被仰付度偏に奉願候 敬具

營口元神廟街り 井門洋行
遼陽西門外 仝支店

官製口付莨、文房具
和洋酒類 白米
鑵詰、菓子
藥品、雜貨 卸商
醬油瓶樽詰
防寒具、安價販賣
營口西北街
豐生洋行
營口永世街七十號（第二市場）（電話十三番）

軍隊用雜貨
日用品雜貨
呉服太物類
化粧品類
陶器類
食料品類
卸小賣
其外新荷着精々安價販賣
石原商店

廣告
當公司今般業務擴張の爲め特に敏腕熟練なる技術者數名を聘し公私を問はず和洋各種の建築及土木事業に關する製圖設計監督の依託に應し最も懇切敏速に處辨す
建築部主任技師工學士 森川範一
土木部主任技師 永原万吉
營口元神廟街第百七十二號（電話一七三番）
土木建築請負業 井上公司

萬代不朽毛製屋根瓦ラバロイド及リサイト販賣廣告
ラバロイドルーヒングは堅牢にして極寒炎暑の候に耐へ如何なる地にても不適の場所なく龜裂破損漏水の憂なく良く極寒炎暑の地に適し床及階段等の敷物に有効なり
リサイトは室內裝飾塗料にして通常ペンキの如く臭氣なく變色の憂決してなし
米國紐育スタンダードペイント會社東洋特約一手直輸入販賣元穴原商會營口特約販賣店
營口元神廟街第百七十二号（電話一七三番）
井上公司

時刻
塘沽至北京　上…
天津至北京　上二、〇〇　下二、〇六
山海關至北京　上一二、〇〇　下五、二〇
　上八、〇〇　下六、四五
天津至山海關　上六、二五　下六、二一
唐山至山海關　上六、〇〇　上一一、五八
山海關至營口　上七、〇五　下四、五五
溝帮子至新民屯　上三、〇〇　下六、五七

…御售可申候
市場北三階樓
時計店ノ二階
宮原公司

土木建築用鐵材料一式
其外鑄物諸般
門前街東
…場

岡本千代…一座百拜…
追而昨日より開場の筈に御座候處大道具準備等手間取り候爲め一日延引仕候態〻御足勞被下候御方樣へは幾重にも御詫び申上候

報
昨日氣溫
昨日の氣温　最高温度五四、四度　昨年との比　低十七度七
最低温度二十九度七　低十四度七

宮門抄

十二日
商部　鑾儀衛　廂黃旗值日無引見
召見軍機
皇上明日卯正二刻至
奉先殿　壽皇殿行禮畢還海
皇太后　皇上本日巳刻升
乾清宮奧國使臣顧親斯基覲見呈進國書
商部遞封奏二件　李灼華遞封奏一件
十三日
吏部　翰林院　正黃旗值日無引見　孫中堂謝賞壽物恩
書正恭送壽物　覆命　濤貝勒由東陵回京請安
召見軍機
吳煦王金鎔遞封奏各一件

上諭恭錄

十二日奉
上諭廣東潮州府知府員缺緊要着該署督于通省知府內揀員調補所遺員缺着吳蔭培補授欽此
上諭貴州按察使着興祿補授欽此
上諭安徽徽寧池太廣道着馮汝騤調補童德璋着調補湖北鹽法道欽此
上諭河南衛輝府知府着華輝調補國蔭着調補甘肅慶陽府知府欽此
上諭廣東惠州府知府着陳兆棠補授松堮着調補安徽池州府知府欽此
十三日奉
上諭四月初一日孟夏時享　太廟朕親詣行禮　後殿派訥勒赫行禮東廡西廡派德壽英俊各分獻欽此
上諭雲南迤東道員缺着石鴻韶補授英傑着補授雲南永昌府知府欽此

代論

星沙吳貳尹論作吏書之函稿　（錄大公報）

昨讀二月三十日貴報載有　上諭謹註一篇要做清官須從節儉上做起兩段敬誦之下欽佩莫名感觸積見因效顰焉嘗攷周官晚出後世疑之程朱斷爲非聖人不能作群疑乃釋蓋其書純文理盡精微俟諸百世而不惑者矣鄙人以爲貴報謹註與白話兩段非深明時務洞達人情飽經世故者不能言周官小宰聽官府之六計皆以廉爲本蓋貪則其餘不足觀矣然今日之官恐於周官之所謂六計者未必果能有其一焉若再益之以貪眞民不堪命矣目今直省蒙項城袁公之明察如神破格用人銳意吏治勤恤民隱破除情面痛革積弊尙不免有一二不肖暗試其技倆其他省百姓不知幾路哭矣嗚呼能不同爲之痛哭而流涕也哉誠如貴報所云欲牧民者敎厲廉隅則必自儉德始做清官須從節儉上做起雖聖人復起不易之言也但凡事必淸其源而後流潔必正其本而後末直然做今日之官有不能自廉自儉者數端欲保民强國者亟宜變通之而山荆未老桃葉先迎美婢嬌童應時俱至尙不與焉僅即以州縣而論到省之初旅行固須費而引　見須費印結須費驗照註册領憑投供補缺種種須費既到省各憲署註册繳照繳憑投履歷印結各項須費稟見各憲茶號房須費三節茶號房又須費無論有無差使及官之大小貧富皆必須如數奉呈較之國課追索猶厲冬季各憲茶房又須炭費得一差委送扎者須費銷差投文遞稟又須費甚至稟復一事條陳一件及上憲招考偶試報名亦莫不須費幸得一缺掛牌報喜須費上種種由來已久非自今日始幾成鐵案定例矣故寔缺掛牌並添置各件必須一二三千金不等署缺者至少至儉亦必須七八百金即至佐雜小缺亦須一二百金方能赴任既到任後又有到任規節壽禮各項此雖經大府通飭化私爲公恐不肖者久之難保別不別生孝敬之新花樣也若候補時除僑寓日用外迎送上司朔望牌期空上衙門次次須車馬費到任時備旗鑼傘扇牌棍轎車紅黑帽鞭行香拜墊執事燈籠預備辦差各件並已身單袷皮棉沙四季大衣服與行裝又有便服單則紬甯綢紗絲素緞紡紬又須有花無花並吉凶各數套夾亦如是又須海狐絨金貂絨各樣泥絨各數套皮則珍珠毛銀鼠灰鼠洋灰鼠二毛羊皮大毛羊皮紫猫狐腿狐臏門狐身狐脖火狐青狐白狐玄狐黃狐芝麻狐金銀狐貂皮猞猁種種俱全然後快心棉則有甯紬大小花素緞外國各種絨泥紗則須春紗織線紗芝麻蒂紗亮紗官紗秋羅銀羅又須分各色各花樣官服行裝便服俱稱是帽領亦如之靴鞋則亦分四季老爺如是太太如是姨太太亦須如是少爺小姐姑太太甚至外老太爺外老太太以及兄弟姪戚莫不　如是而且鋪墊車轎被褥帳簾亦分單袷皮棉紗各數套曾聞關州縣竟有數萬金衣服其古玩器俱金珠首飾珠頂尙不計也至少至儉者亦必須數百金或一二千金之衣服行李再加之舊日之債負親友之假貸衙門中應酬例須各用度及前日窮親戚友贈遺酬報老親之迎養老師之報効京官中之冰炭別敬以一千餘金養廉包羅以上多端事故欲其不貪能有幾人耶嗚呼以上所言糜費之浩大章服之自由流弊已達極點在公子官則曰我素富貴行乎富貴在寒士窮措大則曰我半生困苦不如人今日得綰印綬大丈夫當如是也縱有人格稍高者不囿此兩見界然四季大衣服亦例所必需不如是則不能合羣不如是則不能見上接下愚以爲變通服制　朝廷之大政卑卑者不敢言亦不知也似宜於舊制中酌限制之以崇儉去奢爲主義以慰下民踴躍國民捐之歡心限制之法候補人員除初到省稟見迎見新上憲到任稟辭節壽各大典禮外均補褂花衣其餘平常稟見概穿行裝到任後除接印行香節壽各大典禮外餘均行裝皮服則羊皮袍褂一套足可通用紗則亮紗一套足可通用單袷棉各一套足矣不得色色俱備接差不用酒席通定家常便飯適口菜五六簋茶水冰炭房舍鋪墊恭敬新潔而已家丁祇准布服儀從一傘一轎前後項馬足矣餘均不得置辦下鄉時或車或馬巡勇數名作三班書辦因案酌帶一班足矣此不獨可以養廉兼可以親民可以免外人譏哂再除去官場習氣種種迷信勤下鄉勤問案勤結案迅緝捕少用家丁少用官親少喫口洋煙少飲杯盲酒多見幾個正紳父老少打幾川麻雀牌少晝幾道細君眉多看看律例約章時報勤察家丁吏胥獄囚諸事以化愚正俗開民智爲己任多勸開辦幾處蒙小學堂多勸捐幾兩銀子的國民捐多勸讀書百姓看幾分好時報從公正廉明節儉勤勞項下積點兒養老錢亦未嘗不可諸君諸君兒孫自有兒孫福不必爲他作馬牛憂時愛國諸君以試何如鄙人再將官場習氣約略言之誠如貴報所云一入官界面目頓易性質亦移即一介末吏到省後亦必大書特書公館條曰候補縣右堂再加上一個五品銜出門閒遊亦必率一跟人行路不讓輿夫走卒曰我是官兒居則雖用一僕亦必曰來將出門必令家人呼曰老爺下來了返則曰老爺回來了喫點點心亦必索嗽口盂擰手巾把上車必令僕役扶送下車亦必接按夜雖小便必令跟人持手照前導見上司奴顏婢膝滿口連連應聲者者是見平等人或官與稍卑者必雙足疊踞兩手叉腰眼鏡高架鼻煙時嗅遇下人或百姓稍拂意開口離不了混帳滾出去等各詞僕人請安磕頭不獨坐受連頭也不點以爲不如此即失官體若再得意者即見同寅同職輩亦祇安還半個揖略拱手見上司若逢怒罵百端仍是笑顏口稱是是在家裏河東獅吼屏息俯服一臨民一言偶觸不打一千便是八百各種習氣不一而足雖未必人人如是要不乏是人也深望爲民上者有則改之無則加勉中國幸甚官界幸甚

東京電報

●**日本派外部員赴中國**　此次日本特將大使館一等書記官萩原守一君派遣中國不日前往云聞奉天開埠之後即可調任爲該地總領事云（西四月九日發）

中外要聞

●**垂詢教案**　昨　皇太后召見軍機大臣垂詢南昌教案各大軍機照胡撫來電奏對　皇太后大滋不悅當即飭令外部據理詰責法國駐京公使速爲議結並着查明胡撫處分交政務大臣即行議奏

●**添設偵探**　警部尙書徐大軍機世昌面奏凡立有巡警省分均添設偵探巡警以襄捕務查兩湖四川安徽江蘇等省宜先開辦等語奉　旨着該尙書即照所請電飭各省督撫仿照北洋偵探章程添立（聞徐尙書奏對良久以上各省均係革命黨發源之所是以奏請深合聖意也）

●**學堂改良**　聞東淸鐵路學堂肄業生公稟學部改訂課程仿照大學堂章程肄業茲由學部大臣批准並諭知各生照常入堂肄業靜候查辦等語

●**外部防微**　聞外部人云日前英國公使至署稱奉英政府電訓於各省敎堂醫院添派衛兵以防土匪等語當由外部堂憲告以敎堂醫院既設立在中國省內應由中國督撫派兵保護貴大臣所請添派衛兵一節可勿庸議云云

●**索訂章程**　英公使又向外部索訂保衛章程外部堂答應以俟本部訂妥規條再送呈貴公使館內閱看

雜報

●**海賊綁票**　昨聞蓋城來人云距城西南三十餘里有歸州地方村民頗稱殷實而地瀕於海前宵忽有賊船參艘約七十餘賊突然登岸遍行搜掠飽載財物復綁富民十餘名脅爲質票須銀取贖即揚帆遠遁云云

●**汽車捉盜**　昨聞河北人來云先前錦郡西北虹螺縣一帶鬍匪出沒爲害行人常刼汽車坐客因之巡警營兵隊沿押各車保護前日於溝帮子車站有一搭坐者係滄州人氣象兇惡實爲鬍匪被前刼諸客所識暗示巡兵就車捉護當於腰中搜出槍刃等具傍晚送交衙署尙未知若何懲辦矣

NEWCHWANG, TUESDAY, APRIL 10, 1906.

A Kindness That Is Not Wasted.—(Part IX.)

Sir Shentung's startling intimation that German measures and German plots have hatched the present discontent in China and also that the German Government or its agents are giving support to the anti-Dynastic revolutionary movement is reported to have created a sensation in the diplomatic circles of Berlin. The Berlin despatch from which the Chinese Minister has been re-quoted has concluded by adding that "if it should prove that the statement of Sir Shentung can be substantiated, there is a possibility that China will be asked to disavow his remarks." We have lately read of his promotion in rank, but nothing more of his sensational statements.

This puts us in mind of the German Socialist leader Herr Bebel who, in a three hours' speech at the Reichstag severely criticized not only the policy of the Government, but also the action of the Kaiser. In the course of his scathing condemnation, he said: "Germany, through her intervention in 1895 shared the blame for the Russo-Japanese War. Germany's East Asiatic policy was madness. In a war with England the whole of Germany's Colonies would be lost within a fortnight. The Colonies were not worth the sacrifice they demanded." The recent defeat and internal disorganization of Russia together with the Anglo-French entente cordiale cemented mainly through Germany's faulty Moroccan policy have driven the latter into a position of splendid isolation and dashed to pieces her cherished dream of a glorious world policy pursued since 1890. Under these changed circumstances, Kiaochow has been divested of almost all of its former strategic value and has become a veritable financial burden as she might be thankful to get rid of. The extravagant outlay for other than commerical purposes in China being no longer justified needs to be heroically curtailed. The majority of the troops may be remoued with profit to places in greater request of them or where they may be maintainep at less expense. If this sensible move on Germany's part could produce on the simple-minded China just such an impression that Germany having renounced all territorial pretensions on the other, if she had any before, is the only great Power worth of China's unlimited confidence, why not?

Lt.-Col. Yokura who returned last Sunday had hardly recovered from the fatigue of his travel when he received yesterday an urgent summons from H. E. Viceroy Gen. Oshima and is going to leave for Liaoyang by this afternoon's train.

His foreign friends have got up a very pleasant surprise against his return from Japan. It has come in the shape of the address of presentation under date of Jan. 1st last, when the handsome gold watch was presented to him. The address subscribed by 115 ladies and gentlemen is a rare piece of chirographic art designed with exquisite taste and beautifully executed. It is placed in a quadrupleedged frame, and had been hung in his room so as to catch his first glance unfailingly on entering it.

The happy recipient expresses his thanks for the elegant supplementary gift through our column before doing so in person later.

The arrivals at the "Manchuria" on the 8th last are Mr. and Mrs. E. Peezis from Chefoo and Mr. S. W. Withington and Mr. A. Edelstein both from Tientsin. Mrs. Chas. Thunder also came from Tientsin to join Mr. Thunder staying at the same hotel.

Dr. T. Tazoe, the popular Japanese dentist in the French Concession, Tientsin, whose proposed visit to the port has been previously noticed by us, arrived here last Sunday evening for about 3 weeks' stay and put up temporarily at Room I the *Nichi-Ei* Hotel (formerly "The Newchwang Hotel.") He thinks of moving into the "Manchuria" before the 1st week is over. We understand that some cases of bad teeth require a treatment of no shorter a duration than 2 weeks or still more. It will do well for local sufferers to apply early. In volunteering this recommendation, the Editor is borne out by his own gratifying experience of Dr. Tazoe's professional skill, which has delivered him from dental miseries of long standing for nearly a year and a half past.

營口旅館料理店案內（いろは順）

- 旅館 料理　第一營口ホテル　元神廟街九十六號（電話八四番）
- 旅館　第二營口ホテル　河岸通り
- 料理　第三樓　元神廟街三十二號（電話七九番）店主 粕屋忠兵衛
- 料理　入船亭　永世街百八十三號　谷初次郎
- 旅館　日營ホテル　河岸通り　店主 井上源吉
- 料理　東京館　永世街八十六號　店主 村上京四郎
- 旅館　東茂旅館　西北街百七十三號　正金銀行西三程
- 料理　千鳥　元神廟街百三十三號　店主 吉住善藏
- 料理　沖の島　永世街百六十四號　店主 中川彌三郎
- 料理　吉野亭　永世街八十六號　店主 坪田正好
- 旅館 料理　高砂ホテル
- 料理　高砂亭　西北街　店主 片山小みつ（電話一四五番）
- 旅館　竹村館　永世街二十二號（電話五一）店主 麻田久二
- 旅館　大和館　永世街三十四號　店主 前田九一郎
- 料理　滿洲樓　南永世街第十號　店主 直塚勝一
- 料理　萬梅　豊濟門街第百〇四號　店主 田島彌助
- 料理　まんなをし　永世街字二本町二百手九号　店主 和田常松
- 和洋 御料理　公樂園　南永世街
- 東京 生蕎麥 一式　東庵　元神廟（電話百五十九）
- 旅館　金城ホテル　永世街百六十六號
- 料理　第二金城ホテル　永世街百六十六號　店主 齋藤富次郎
- 料理　醉花園
- 旅館　澁谷旅館　永世街百二十七號　店主 澁田留吉

- 料理　喜樂亭　營口元神廟街
- 旅館　東雲旅館　永世街七號　店主 谷口今朝太郎
- 營口軍政署御用旅館　東雲　主任 谷口今朝太郎
- さるそば 第一更科　營口元神廟街
- さるそば 第二更科　永世街鶴の湯角
- 御料理　柳亭　叮嚀專一　豊濟門街二三　店主 玉岡益人
- 御料理 並ニ溫泉　一力　毎日新湯　營口永世街　店主 堀万助
- 和洋 料理　本店 松月亭　營口元神廟街一四三号　住田信太郎
- 料理　都樓　平野町　店主 坂本ちか

遼陽旅館料理屋案內

- 旅館 料理業　日營ホテル支店　主任 井上源吉
- 御料理 會席　菊水館　主任 朝枝園提
- 旅館 西洋料理　遼陽館　主任 永瀬宇吉
- 旅館 料理業　公陽館　主任 宮川秀基
- 御料理 會席　末廣屋　主任 山根初之亟
- 御料理 色々應御注文　凱旋亭　主任 古谷庄太郎
- 旅館 御料理　遼塔ホテル　主任 木村常吉
- 遼陽兵站司令部指定ホテル　遼陽倶樂部　營口東雲館支店　主任 谷口今朝太郎
- 會席　玉家
- 御料理　主任 西野治三郎
- 御料理 會席　來々亭　主任 石田清
- 和洋 御料理 旅館　遼陽西街西門一二七号　支店 滿洲ホテル　上松榮治郎

奉天旅館料理屋案內

- 一和洋御料理　遼東館　遼陽城內東街
本館は遼陽城內第一繁盛の地にあり內外人往來頻繁なり今般四方紳士諸君の御勸に依り宏莊美麗なる日本風の家屋を新築致し一百人以上の宴會等も出來得べく廣間も御座候に付ては續〻御光來被成下度花客諸彥に對し親切叮嚀を旨とするは弊館の特色に御座候
- 旅館　奉天館　奉天城內鐘樓南大街　奉天軍政署指定旅館（電話一五）
- 和洋御料理　日清倶樂部　奉天大南門裡大街（電話一四）
- 商人御定宿　瑞豊館　奉天小西關大街北側　館主 河野嘉吉（電話　號）
- 會席御料理 高等御旅館　天神樓　奉天小西關大街北側（電話　號）
- 旅館料理店　日の出樓　奉天小西門通（元紅葉館跡）溫泉付大勉強キレーデヲイシヒ　樓主 大瀬七造（電話十七號）
- 旅館料理店　日盛館　奉天小西關大街南側　館主 入江熊男（電話　號）
- 旅館 料理店　梅松館　奉天城內灰市街東華門宮殿東側　館主 押尾富次郎（電話　號）
- 旅館料理店　大和館　奉天大西關高臺子廟前　館主 今井コノ
- 旅館　大正館　奉天小西邊門外十間房道北側　館主 大草村行
- 奉天に於ける日本風新築家屋は弊館より外に無之特に夏期御宿泊には最も適すべき樣に相成居候間御投宿の節至極便宜に御取扱可申上候以上　高砂館本店　奉天十間房第十五號
- 旅館 御料理 店　高砂館支店　奉高館　奉天城外廿四號　店主 宇本智平
- 旅館料理店　日奉館　奉天小西門外大街　館主 原田清五郎
- 高等旅館　東洋館　奉天大西門外小什字街（電話號）主任 藤島初野
- 御料理　梅ケ枝　奉天小西門より一丁西の辻北入　館主 辻井ムメ
- 旅館料理店　勉強館　奉天小西關外北長發園隣

撫順炭大販賣
多少に不拘御用命被仰付度願上候
金城館販賣部

特別室落成
營口金城ホテル旅館部

會席御料理
金城館

奉天 小西門外
會席御料理
高等御旅館
金城館

一關內外蘆漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續　但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第一七二號
大淸通運公司
營口支店

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ぶも尚ほ不拂の御方は其姓名を揭げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也
營口旅館料理屋同業組合

歐米各國最新流行形
西海洋服店
永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

新着の御知らせ
東京より
蜂印香竄葡萄酒、羊羹、味付海苔、旅行用トランク、手提鞄、御婦人足袋、謄寫版、眞筆版、コツピープレス等
其他
雜立印白酒、寄木細工、漆器、陶器、金屏風等夫れ〳〵產地より着荷仕り候
新到
各種皮包、皮箱、文具格、畫掛、畫漆茶机、畫漆茶盤、金漆畫屏、金漆鏡臺、眞筆版、謄寫版、極上麝香水、蜂牌香竄葡萄酒、
營口
加藤洋行
（電話八十番）

飯塚工程局材料部
營口元神廟前
（電話百三十五番）
弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

自造
煉瓦●瓦
並に各種石材販賣
營口青堆子
加州組
（電話八十六番）

大連
東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

西洋
家具
製造販賣
營口青堆子
淸水寧木局
（電話九十四番）

美味安價西洋料理
牛莊亭

會席料理
三日月
營口警務課前南江入ル

東營口郵便局東隣
●島田洋服店●
新民屯停車場前
●同支店●

爲替相場（四月九日）
- 日本向　九十九圓五十錢（軍票百圓に付）
- 上海向　七十一兩二十五錢（同）
- 天津向　一百〇二圓五十錢
- 芝罘向　一百〇三圓五十錢（百弗に付）

日本品最近物價　加藤洋行
紙類
- 一半紙　一〆　二圓九十錢より三圓廿錢
- 一美濃紙　全　七圓五十錢
- 一仙花紙　一帖（六十枚）　六十錢
- 一塵紙　一圓七十錢
- 一全狀袋　二十枚續　三錢
- 百枚　二厘以上四錢
室內裝飾品及寢具　矢野洋行
- 一蒲團　三枚組　六圓九十錢以上
- 一座ブトン　十帖　六圓五十錢以上
- 一疊表　一疊　二圓六十錢以上三圓
- 一薄縁　十枚　八圓
- 一麻縁通　一疊敷　三圓
- 一綿縁通　全　三圓五十錢
- 一由加多織　全　一圓七十錢

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.

本紙定價
- 一枚ニ付　銀四仙
- 一ヶ月前金　銀八十仙
- 半ヶ年前金　四弗八十仙
- 一ヶ年前金　銀九弗六十仙
- 廣告　二十一字詰一行一回　銀二十仙